

ぶぎん海外視察

ベトナム（ホーチミン+ダナン）経済視察ツアー報告

ぶぎん地域経済研究所 取締役 調査事業部長 松本 博之

ぶぎん地域経済研究所では、11月12日（月）出発、11月17日（土）帰国の4泊6日の日程でベトナム経済視察ツアーを開催した。今回はベトナム南部の最大人口を誇り、ベトナム経済の中心都市であるホーチミン市とその周辺の工業団地、そして中部の中心都市で、近年はハイテク産業の誘致と周辺の世界遺産とともに観光客誘致で脚光を浴びているダナン市を訪問した。

ホーチミン市を中心とするベトナム南部

■ ASEAN の“へそ”の位置

ホーチミン市は、香港とシンガポールを結ぶ直線のほぼ中間点にある。ASEAN の“へそ”とも言える中心に位置するホーチミン市とベトナム南部エリアは、ASEAN 自由地域協定 (AFTA) 締結後の重要拠点として注目されている。またベトナム北部に比べ、海上輸送コ



ホーチミン市（筆者宿泊のホテルより）

ストが凡そ5割安いということも日系企業にとっても大きな魅力である。

■ホーチミン周辺はベトナム最大の経済圏

ベトナム最大の人口を誇るホーチミン市とその周辺地域は、人口増加、外国からの投資増加により経済規模の拡大、各産業の成長が期待されている。1人当たりのGDPは、ホーチミン市では5,500ドル（2017年）と全国平均2,385ドルを大きく上回っている。

■日本人にも暮らしやすい生活環境

ベトナム南部は1年を通して温暖な気候に恵まれ、大らかで楽天的な人が多いことが特徴である。東南アジアの中でも比較的治安が良く、仏教徒が80%を占め、日本人にとって親しみやすい生活環境である。

ダナン市を中心とするベトナム中部

■ベトナムで最もダイナミックに変貌している都市
ダナン市は人口106万人とハノイ市やホー



ダナン市 (©Danang Investment Promotion Agency)

チミン市と比較すると規模も小さく、日本での知名度もあまり高くないが、最近では行政（ベトナム地方競争ランキング 10 回中 7 回第 1 位を獲得）、環境（アジア都市景観賞、ASEAN 環境持続賞）、情報通信（情報通信技術開発応用の即応力指数 6 年連続第 1 位）等の分野で受賞するなど大きく変化を見せている。

■世界遺産を擁する豊富な観光資源

ダナン市はベトナム中部にある 4 つのユネスコ世界自然遺産に近接し、同市のビーチはフォーブス誌等により「世界で最も豪華で快適なビーチ」の一つに選ばれている。ダナン市も観光産業を同市の重要産業と位置付け、特に日本からの観光客誘致に力を入れている。ダナン市はベトナムで最も観光に適して魅力的な場所の一つである。

■ハイテク産業の集積を目指す

現在、開発中の「ダナンハイテクパーク」によって、ハイテク産業の集積を目指している。同パークは完成時の総面積 1,128ha を予定し、製造エリアのみならず、行政地区、居住地区、職業訓練、研究開発、物流施設、公園・スポーツ施設などを兼ね備えたベトナム国内では他に類をみない工業団地となる。マイクロエレクトロニクス、バイオテクノロジー、IT などの優先投資分野として投資優遇策も充実している（詳細は 46 頁パーク構想図参照）。



◆ベトナムの概要

- 国名：ベトナム社会主義共和国
- 面積：33 万 km²（日本の九州を除く面積に相当）
- 人口：9,541 万人（2017 年）
- 行政区分：5 中央直轄市（ハノイ、ホーチミン、ハイフォン、ダナン、カントー）+ 58 省
- 政治体制：ベトナム共産党が主導する社会主義国（共産党書記長、国家主席（大統領）、首相からなるトロイカ体制）
- GDP 総額：2013 億ドル
- 1 人当たり GDP：2,550 米ドル
- GDP 成長率：6.81%
- 失業率：2.24%（都市部：3.18%、地方 1.78%）
- 最低賃金（ハノイ・ホーチミン市）：月 398 万ドン（約 175 米ドル）
- 主な産業：農業、水産業、製造業（縫製、バイク、携帯電話）サービス（ホテル等）
- 世界でトップシェアの農産物
米（生産第 5 位、輸出第 2 位）、コーヒー（生産・輸出共に第 2 位）、茶（生産・輸出共に第 5 位）、ゴム（生産第 3 位、輸出第 4 位）、コショウ（生産・輸出共に 1 位）、カシューナッツ（生産第 3 位、輸出第 1 位）

ベトナム（ホーチミン+ダナン） 経済視察 視察調査内容

最初に視察ツアーの前半となったホーチミンでの日程を報告する。

視察報告（ホーチミン市）

■ JETRO ホーチミン事務所

視察ツアーの最初として JETRO ホーチミン事務所にお伺いした。同事務所の山下大輔氏からベトナム経済・産業分野での最新動向についてブリーフィングをしていただいた。ブリーフィングでは、視察を始める前に訪問地の経済、社会そして産業動向や日系企業の最新情報を得ることを目的とし、また参加者間のベトナム情報の共有を図る上で非常に有益なものであった。山下氏には、ベトナム国の概要やマクロ経済データだけでなく、北部、中部、南部地域の特徴や外国投資の状況、ベトナム全国の物流網や大型インフラ案件等、幅広く詳細な情報を提供していただいた。

■ フォーバルベトナム（株）

日系中小企業開発株式会社（以下、JSC）が手掛けるレンタル工場を視察した。同社は株式

ホーチミン市での視察先と主な内容

日付・場所	視察先（対応者）	主な内容
11月13日 （ホーチミン）	JETRO ホーチミン事務所 山下 大輔 氏	ベトナムの産業・経済の現状についてのブリーフィング
11月13日 （ホーチミン近郊）	ロンドウック投資（株） 鎌田 雅彦社長	ロンドウック工業団地の概要説明
11月13日 （ホーチミン近郊）	フォーバル・ベトナム（株） マネージャー 柴田 彩子 氏	同社が開発している JSC レンタル工場の説明と工業団地内の視察
11月14日 （ホーチミン近郊）	アベル・ベトナム（株） 長谷川 徹也 社長 （ロンドウック工業団地内）	（本社：埼玉県川口市） 医療機器
11月14日 （ホーチミン近郊）	メーブルツリー・ベトナム 栃岡 研悟 氏	同社のベトナム国内での不動産開発事業
11月14日 （ホーチミン近郊）	アベ・インダストリアル・ベトナム（有） 高橋 馨 社長 （VISP II 工業団地内）	（本社：新潟県長岡市） 金属プレス加工業、 2007年6月設立

会社フォーバルと現地企業2社、それに埼玉県も1%ながら出資している企業でレンタル工場の運営・管理業務を中心に行っている。ホーチミン市からクルマで約50分のドンナイ省のニョンチャック工業団地エリアにある。柴田マネージャーから同工業団地、レンタル工場の運営の特徴などについて説明をいただいた。その後、レンタル工場内の視察を行った。

■ アベ・インダストリアル・ベトナム

アベ・インダストリアル・ベトナムは、新潟県長岡市に本社を置く、配管支持金具製造の阿部製作所の現地工場である。配管支持金



アベ・インダストリアル・ベトナム本社入口
（前列中央 高橋社長）



アベ・インダストリアル・ベトナム工場内



ロンドウック工業団地ブリーフィング

具を中心に建築関連資材を生産している。

同社創業以来、現地で陣頭指揮を執っている高橋社長から、進出からこれまでの経緯やご苦労された点などお話をいただいた。ベトナム進出の留意点や現地での経験から導かれたベトナムやベトナム人などの印象についても率直に語っていただき、活発な質疑応答が続いた。その後、工場内を30分以上かけて見学させていただいた。現在は製品の全てが本社向けであったが、将来的にはアジアはもとより欧米まで視野に入れて事業拡張を考えている。

設立：2006年12月 資本金：850,000US\$

従業員数：122名

所在地：ビンズン省 VISP II（ホーチミン市からクルマで90分程度）

業務内容：配管支持金具を中心に金属プレス加工を専門とし、表面処理加工からアッセンブリ作業まで高品質の製品づくりが特徴である。

■ロンドウック工業団地

ロンドウック工業団地は、ドンナイ省と双日株式会社や大和ハウス工業等が開発を手掛けている。ホーチミン市の中心部からクルマで約40分。陸、海、空路にそれぞれに抜群で良好な地盤に加えて、海拔40メートル前後の丘陵地で水害などの心配がほとんどないという好立地である。同工業団地のサービスの特

ダナン市での視察先と主な内容

日付・場所	視察先（対応者）	主な内容
11月15日 （ダナン）	ダナン市人民委員会（表敬訪問） Ho Ky Minh 副委員長	ダナン市の経済状況と投資環境等について説明
11月15日 （ダナン近郊）	ダナン・サイゴン投資促進センター Tran Ngoc Diep ゼネラルマネージャー	同センターの業務内容と開発状況の説明と質疑応答
11月16日 （ダナン近郊）	ダナンハイテクパーク Vuong Thanh 建設計画部長	同パークの開発状況と整備後の構想について説明 同パーク内の視察
11月17日 （フエ・ホイアン）	世界遺産フエ&ホイアン視察	世界遺産の視察

徴や募集状況などについて鎌田社長から説明をいただいた。

視察報告（ダナン市）

■ダナン・サイゴン投資会社 ダナン事務所

ダナン・サイゴン投資会社は、サイゴン投資グループのメンバーでベトナム国内での工業団地と都市開発（住宅開発、ホテルやリゾート）を行うトップ企業の一つである。ベトナム国内に5,100haの工業用地と1,100haの住宅用地を保有している。

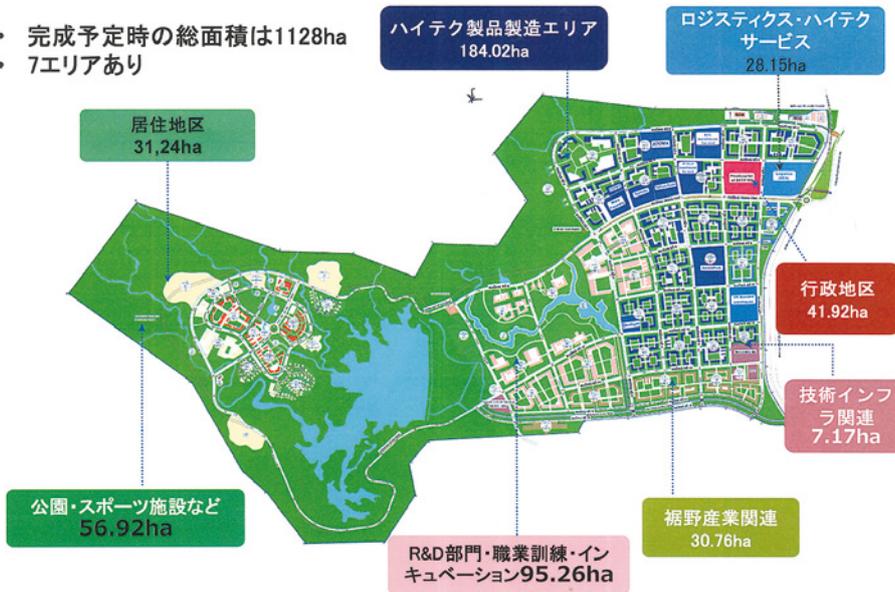
ダナン市及び周辺地域で、同社が現在手がけている「拡張ホアカイン工業団地」や「リエンチェウ工業団地」を中心に事業内容の説明を受けた。



ダナン・サイゴン投資会社ブリーフィング

■ダナンハイテクパーク構想図 (詳細は43頁下段参照)

- ・ 完成予定時の総面積は1128ha
- ・ 7エリアあり



(©Danang Investment Promotion Agency)

主な投資分野

- マイクロエレクトロニクス、機械電子工学・光電子工学技術
- ソフトウェア及び高度情報通信
- 新素材、ナノテクノロジー、新エネルギー
- 精密機械、自動化技術
- 医療、水産及び農業向けバイオテクノロジー
- 石油化学及びその他特殊テクノロジー

■フエ・ホイアン世界遺産視察

・フエ (Hue)

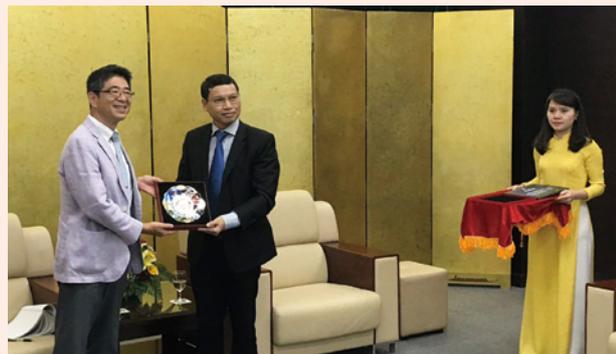
ベトナム最後の王朝であるグエン朝 (1802～1945) の都が置かれたのがフエだ。現在も残る王朝の建造物が世界遺産に登録されている。ダナン市からクルマで2時間30分程度の

距離にある。市内を流れるフォン川のほとりに、グエン王朝13代にわたる皇帝の居城のグエン朝王宮を始め、2代ミンマン帝、4代トゥドゥク帝、12代カイディン帝の廟などが世界遺産となっており観光客の目を楽しませている。

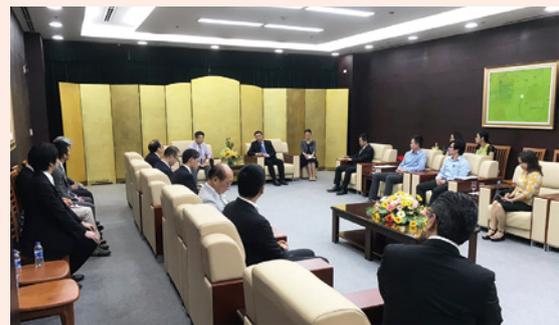
ダナン市人民委員会 副委員長を表敬訪問

ダナン市は100万人以上の人口を抱えるベトナム中部の中核都市としてアジアのみならず世界の多くの国から、その都市力のポテンシャルが注目されている。経済成長率もベトナム国内の成長率を大きく上回り8～9%の高成長を続けている。

ダナン市としては、周辺の世界遺産と世界レベルで美しいビーチを活かした観光産業、ITなどのハイテク産業を地域産業の中心として注力している。現在、年間650万人の観光客のうち、海外からの観光客は230万人。日本人観光客が15万人程度に止まっており、これから日本からの観光客誘致にも力を入れていきたいと語った。



副委員長と土田団長



視察団と人民委員会との意見交換風景



◀フエ王宮入口

ホイアン
ランタンの夜景
(©Vietnam Airlines)



・ホイアン (Hoi An)

約 180 年前の街並みが残る旧市街が世界遺産に登録されている。16 世紀半ばよりアジアやヨーロッパとの交易の中心地となり、かつては日本人街があるなど日本との歴史的関係も深い。1593 年日本人が建造した遠来橋（日本人橋）は名所となっている。またホイアンと言えば“ランタン”が名物で、ホイアン観光の代名詞となっている。ランタン祭りが毎月行われるなど古都の夜を照らしている。ダナン市内からクルマで 45 分程度。

終わりに

今回の経済視察ツアーでは、ベトナムへの同様の視察ツアーで当たり前のように訪れるハノイやホーチミンに加え、本視察の“目玉”として、どこかもう一つの都市をと企画し、中部の中心都市ダナン市と周辺地域を選んだ。日本においてハノイやホーチミン市の両市と比較し知名度は劣るが、近年 APEC の開催地や近接する世界遺産によりベトナムで最も注目される都市である。ダナン市の経済・産業

参加者名簿

社名	役職	参加者名
株式会社伊東宝飾	専務取締役	伊 東 洋 平
ACS 株式会社	取締役	魚 本 慎 一 朗
株式会社サンワ製作所	代表取締役社長	村 上 忠 彦
同	管理部	甲 川 俊 二
株式会社シンコーハウス	代表取締役社長	宇 津 城 晃 一
同	取締役	山 本 智 広
株式会社トキワ宇都宮営業所	主任	佐 々 木 義 法
武蔵野銀行 大井支店	支店長	金 井 貴 之
武蔵野銀行 三郷支店	支店長	橋 口 剛 洋
武蔵野銀行 シンガポール駐在員事務所	所長	船 水 康 平
ぶぎん地域経済研究所	専務取締役	土 田 浩
ぶぎん地域経済研究所	取締役調査事業部長	松 本 博 之

(社名 50 音順・敬称略)

分野や観光地として将来性や都市としての魅力を多くの参加者が目に焼き付けた。

ダナン市ではまだワーカーの賃金はハノイやホーチミン市よりも低く、周辺には多くの大学や専門学校があり豊富な若年労働者の供給源ともなっている。政府が中心となって工業団地や社会インフラの整備を進め、日本企業の進出に大きな期待を寄せている。また先述のようなフエやホイアンの世界遺産、世界基準でもトップクラスの美しいビーチなどの観光資源にも恵まれ、外国人観光客、特に日本からの観光客誘致に注力をしている。

予てよりチャイナ+ワンとして、日本企業の進出先として注目されていたベトナムであるが、今回の視察時に聞かれたのが、やや皮肉な言われ方であるが“トランプ効果”である。アメリカ・トランプ政権による対中貿易政策の強硬姿勢により、日系企業のみならず新たなる“ベトナム化”が進展し、企業進出に拍車がかかっている。

今後のベトナムの産業、観光での進化に注目していきたい。